

断熱・調湿・遮音性を評価

地震被災地で採用相次ぐ

デコス

デコス(山口県下関の施工代理店を通じた市、安成信次社長) 責任施工で販売している、新聞紙などの古紙

を原料にセルロースフアイバー(CF)断熱では特に認知度が高材、デコスファイバー、熊本地震の被災地を製造し、乾式で吹き込むデコスドライ工法

住宅では熊本工務店ネットワーク(KKN)が手掛けた563戸でデコスドライ工法が採用された。

長屋の境の壁に使用され、断熱性、調湿性とともにCFの特徴である遮音性が評価された。KKNに加盟する工務店が現在建設している災害復興住宅にもデコスが採用されている。

持ち家の在来木造住宅着工戸数と、CFの出荷件数から算出した

CF断熱材のシェアは3〜4%と推定される。そのうちデコスは1・8%程度を占めるという。九州での販売の伸びが著しいデコスだが、施工能力が間に合わず、地元山口からも施工を応援している。

九州地区に限らず、全国的に2020年の新省エネ基準の義務化が迫っており、断熱性能に対する工務店の意識が急激に高まっている。CFを乾式で吹き込むデコスドライ工法は隅々まで断熱材が行き渡り、熱損失を生じにくいことをPRしている。

デコスの親会社である安成工務店(同)はグループ企業を含む3社が山口、福岡両県で建築する住宅にデコスを標準採用している。

また、同社が開発した戸建て賃貸住宅ユニキューブにも標準で採用している。デコスを施工したユニキューブ2棟を着工し、除湿機能を持つ住宅の躯体シテムとして性能を検証する計画だ。

今年、島根県松江市に楽天LIFULL STAY (東京都)

とハイアス&カンパニー(同)が

手掛ける民泊施設にもCFが採用された。



代理店による責任施工で断熱性能が安定して確保できる